

目 次

はしがき	v
表のリスト	viii
図のリスト	viii
第1章 序 論	1
1.1. はじめに	1
1.2. 本書の構成	2
第2章 英語における部分関係	7
2.1. 部分関係と数量詞の分類	8
2.2. 先行研究	10
2.2.1. 記述的研究	10
2.2.2. 理論的研究	14
2.3. 先行研究における部分構造の分類基準の比較	19
2.3.1. 質を表す部分関係	20
2.3.2. 量を表す部分関係	25
2.3.3. 計量的な部分関係	29
2.3.4. 部分構造に生じる第1名詞(句)の意味的特徴	30
2.4. 第2名詞句の解釈による部分構造の分類	31
2.5. 部分構造と A out of B 形式	36
2.5.1. 部分構造と A out of B 形式の比較	36
2.5.2. M 部分構造と T 部分構造の曖昧性	40
2.5.3. T 部分構造と第2名詞句の単複	43
2.6. 本章のまとめ	50
第3章 日本語における部分関係	53
3.1. 日本語数量詞の分類	56

3.2. ‘A ノ (ウチノ) B’ 形式が表す部分関係	59
3.2.1. ‘A ノ B’ と ‘A ノウチノ B’ の意味論的区別	60
3.2.2. ‘A ノ B’ 形式における名詞交替	61
3.2.3. 部分構造と疑似部分構造の解釈上の区別とその形式	64
3.3. 数量詞遊離文が表す部分関係	71
3.3.1. 数量詞の種類と数量詞遊離文の解釈	71
3.3.2. 遊離数量詞と先行詞の意味関係	72
3.3.3. まとめ	84
3.4. 数量詞遊離文と連体数量詞文	85
3.4.1. 数量詞遊離文と連体数量詞文の機能	86
3.4.2. 定名詞句を先行詞とする遊離数量詞	89
3.4.3. 節と句が表す T 部分関係の比較	96
3.4.4. 数量詞遊離文と部分構造が表す部分関係の比較	101
3.4.5. NQC 型の数量詞遊離文	103
3.5. 本章のまとめ	108
第4章 英語関係節の分類と M 部分構造	111
4.1. 関係節の分類	113
4.1.1. 制限節と非制限節	113
4.1.2. 定・不定制限節の意味機能	115
4.1.3. 安井 (2000) の「吹き出し・はみ出し」分析	118
4.1.4. 安井分析の問題点	122
4.1.5. 関係節の統語構造と決定詞の選択	125
4.1.6. まとめ	131
4.2. 定・不定制限節と部分構造	132
4.2.1. 河野 (2004, 2012) の分析	135
4.2.2. 部分構造を含む制限節	136
4.2.3. 部分構造制約と関係節の先行詞の定性	138
4.2.4. 部分構造を含む制限節の容認性	144
4.2.5. まとめ	146
4.3. 本章のまとめ	147
第5章 英語における数量表現と関係節の相関	149
5.1. 制限節と部分構造	150
5.1.1. 部分構造を含む関係節	151

5.1.2.	類別詞の意味機能	156
5.1.3.	制限節の機能	157
5.1.4.	類別詞の省略に関する意味条件	159
5.1.5.	類別詞の省略に関する意味条件の由来	162
5.1.6.	部分構造を含む制限節の日英語対照研究	164
5.1.7.	まとめ	171
5.2.	非制限節と部分構造	171
5.2.1.	三木(2001)の「アド・ホックではない説明」	173
5.2.1.1.	分析の骨子	173
5.2.1.2.	三木分析の問題点	174
5.2.2.	関係節と主節の論理関係に関する先行研究	177
5.2.2.1.	非制限節	178
5.2.2.2.	制限節	179
5.2.3.	関係節が主節と結ぶ論理関係と主節主語の指示特性	181
5.2.4.	非制限節と先行詞に含まれる数量詞 all の関係	185
5.2.5.	まとめ	192
5.3.	本章のまとめ	193
第6章 日本語における数量表現と関係節の相関		195
6.1.	遊離数量詞の関係節化	196
6.1.1.	副詞と遊離数量詞	196
6.1.2.	数量詞遊離文と数量限定型関係節の共通点	198
6.1.3.	数量限定型関係節の主名詞(スケール名詞)	200
6.1.4.	数量限定型関係節と個体限定型関係節	201
6.1.5.	量を表すスケール名詞	206
6.1.6.	数のスケール名詞と量のスケール名詞の比較	210
6.1.7.	まとめ	211
6.2.	複合名詞句からの数量詞遊離	211
6.2.1.	主節と関係節の論理関係と遊離数量詞	212
6.2.2.	数量詞遊離文における遊離数量詞と先行詞の関係	216
6.2.3.	関係節のテンス・アスペクトと遊離数量詞の容認性	219
6.2.4.	原因解釈の決定要因	221
6.2.5.	まとめ	225
6.3.	概数詞の遊離文	225
6.3.1.	赤楚(2005)による概数詞の分析	227
6.3.2.	赤楚分析の問題点	228

6.3.3. 遊離基数詞と遊離概数詞の解釈	229
6.3.4. 遊離基数詞と遊離概数詞の意味機能の違い	231
6.3.5. 概数詞の基数的用法と比率的用法	237
6.3.6. 二重数量詞文と先行詞のヒト性	240
6.3.7. 二重数量詞文と遊離基数詞	243
6.3.8. まとめ	245
6.4. 本章のまとめ	246
第7章 結 論	249
7.1. 各章の結論の要約	249
7.2. 残された課題と今後の展望	252
参考文献	255
索 引	265